

資料室だより 166

* バッハの新発見の作品

Breitkopf 社から出ている Urtext のシリーズの 4 巻の補遺版としてバッハの新発見作品「Zwei Chaconnen, BWV 1178, 1179」が Peter Wollny の校訂によって出版され、バッハ作品目録に追加されました。散逸している作品を発掘しようというメンデルスゾーンやハウザーらの情熱から始まりバッハの知られざる作品の探求は長い伝統があります。今回の 2 曲は 18 世紀初期の作者不詳のシャコンヌが注意深い検証の結果バッハの若いころの作品であるとされました。

* 典礼用オルガン曲

Orgue et Liturgie と L'organiste liturgique のシリーズからグレゴリオに未所蔵の楽譜をまとめて購入しました。テーマ別に少しずつご紹介します。

+ Notre Père (Orgue et Liturgie, 24)

これは本科生の今年度の課題にもなっている主の祈りに基づくオルガン曲を集めたものです。Notre Père はフランス語で「われらの父」という意味です。皆さんは Vater unser im Himmlereich というドイツ語でコラールとして親しんでいると思います。所収されている作品もシャイド、クリストフ・バッハ、ブクステフーデ、パッヘルベルといったドイツの作曲家が中心ですが最後にフランス人の作品が 2 曲あり、これはラテン語の Pater noster (グレゴリオ聖歌) を定旋律に置いています。パリのサンジェルマン・デ・プレのオルガニスト、アントワヌ・ルブローとパリのコンセルヴァトワールのフーガの教授シモーヌ・プレ（ピアノ曲多数ある女性作曲家）の「主の祈り」があります。ドイツコラールとグレゴリオ聖歌の両方の定旋律からアプローチできるすぐれた楽譜です。

+ Pièces pour cérémonies funèbres (L'organiste liturgique, 15)

+ Pièces funèbres (Orgue et Liturgie, 23)

両者とも、Aus tiefer (De Profundis) やグレゴリオ聖歌のレクイエムの旋律に基づく楽曲が多く、また Tombeau ような哀悼曲もあります。オルガン奏楽者にとってはいつくるかわからない葬儀の奏楽のためにレパートリーを普段から探求している必要があります。

杉本ゆり 記